

2022/11/23

小宮三千夫

相田みつをの“にんげんだもの”

この人は少しやぼったい。色気もなければ華もない(ように写真では見える)。もっと言ってしまえば、地味でダサイ。その、野暮で地味でダサイ相田みつをが、いま、Z世代にひそかに注目されているのだそう。彼らは昭和を生きたこのさえない、ヘタウマの筆文字の詩人に何を感じたのか？

相田みつをは百年ほど前の大正13年に生まれて、30年前の平成3年に、67歳という微妙な年齢(若さ)で没している。百年というと古く感じるが、ほぼ昭和とともに誕生し、昭和に寄り添い、昭和に殉死したとも言える人生だ。

言いたいことはつまり、パソコンもケータイも使いこなさなはしないだろうが、少なくともどんなものであるかはギリギリ理解していたはずだ。それらのあたらしい“device”も、流行語、省略語、外来語など、あらゆる意味不明な造語と同様、忌み嫌ったろうか。否、意外にも俗であるが故、興味津々だったかも知れない。彼の代表作は言うまでもなく、その緩いスタンスと人間愛がバランス良く表現された秀作といえる「つまづいたっていいじゃないか にんげんだもの」である。文字を書きすぎると思われる作品が多いが、「…にんげんだもの」は不要な言葉がひとつもない、緩いながらも完璧な作品だ。

今回は、相田みつをのやや脂肪の多い作品から、ワンセンテンス、もしくはワンワードを拾い出してみた。

つまづいたって
いいじゃないか
にんげんだもの
か

- 空気の中にいるから空気を意識しない 歩くときに足を意識しない
- 今ここにしかないわたしのいのち あなたのいのち
- うまれかわり 死にかわり
- なんにもほしがらぬときがいちばんつよい
- ビリがいるから1位がいる
- 一生燃焼 一生感動 一生不悟
- 水に濡れなければ泳げませんよ
- かんがえてばかりいると日がくれちゃうよ
- 毎日すこしずつ それがなかなかできねんだなあ
- よく廻っているほどコマは静かです
- そのままでいいがな
- 欲張り 強がり 見栄張り 嘘つき 小心 わたしの自画像
- ただいるだけで
- いまが大事
- 極楽を保証されても娑婆がいい
- あなたの顔を見ているところの中の波がしずまる
- あなたの顔を見ているとめまいと耳鳴りに襲われる (by みちお)